

夏休み環境イベント ソーラーエコハウスを作ろう

8月11日(金・祝) 麻生区役所第1会議室



連日の猛暑日、台風の接近と気候変動を考えるにはピッタリの天候のもと、今年の会は開催されました。今回は委員になって初めて体験した立場からの報告を行います。

当委員会の創設者・飯田さんたちが「子どもにも自然エネルギーを体験してほしい」と2013年からスタートしたイベント。親子で学び、工作もできるので、夏休みの自由研究として好評です。途中コロナ禍での中止やオンライン開催を経て昨年と同様、今年も対面で行うことができました。市政だより、タウン紙、イオンなどへの広報の効果もあり、今年も多数の応募を得て、当日の参加者は親子21組49人、スタッフ12人(委員9、区役所3)合計61人となりました。

イベント全体のスケジュールや内容は昨年とほぼ同じですが、さらにパネルシアター初登場などの改良を加えました。(「おひさまだより」vol.46参照)

全員経験者なのに、より良いイベントにしようとする熱意と努力。お子さんを連れて準備に加わった委員も暖かく受け入れる優しさでした。会場の机の配置、進行表、「パネルシアター」のシナリオなど、皆で何度も討議しました。こうして迎えた当日。

早めに集合した委員たちで机をグループ別にコの字型に配置換え、パネルシアター用に左前方にビニールシートを敷いて子どもたちが座れるようにしました。この新しい試みはアットホームなムードで大変よかったです。机の上には資料と工作キットを置きました。10時に開会。松下さんの、子どもにもわかりやすい言葉での司会、児嶋委員長のあいさつに続く、区役所地域振興課長のあいさつ「このイベントは毎年好評で皆さんは大勢の応募者から選ばれたんですよ」が印象的でした。準備段階から参加していた同課の職員もうなずいていました。

Contents

- ・夏休み環境イベント「ソーラーエコハウスを作ろう」
- ・特別養護老人ホーム潮見台みどりの丘の取り組み事例
- ・CC あさお主催の夏休み企画に協力
- ・寺子屋くりぎだいで出前講座を実施
- ・あさお子育てフェスタ／・メンバー紹介
- ・2023 里山フォーラム／・太陽光発電設備見学対応
- ・かもく会出前講座／・編集後記

①
②
③
④
⑤

パネルシアターでは、前方のシートの上に集まって座った子どもたちは、パネルを次々と動かす天野さんと小林さんの手元に注目し、興味津々でみつめていました。松沼さん考案のストーリーが親しみやすかったです。両脇に座った他の委員は地球や太陽やお父さん、お母さん役で、セリフが流れると子どもたちはさらに驚いたようにこちらを見上げていました。林さんの「台風7号が今近づいているよね」とのアドリブ入りのナレーターが元演劇部?と思うほどでした。

次いで、井上さんの解説で工作がスタート。三好さんが多くの候補の中から価格、作りやすさなどを考慮して選んでくださったのが「ソーラーエコハウス」でした。お母さんばかりでなく、お父さんの参加があったのも良かった点です。

工作の後は、麻生区役所屋上での見学会。残念ながら曇天でしたが、ちょっとの晴れ間に子どもたちは大はしゃぎでソーラーカーを走らせたり、保護者は太陽光パネル(区民提案で実現した公共施設)の説明を聞いたりしました。その後教室で森脇さんの理論的背景説明。子どもたちはちょっと疲れ気味でしたが、後半のクイズでまた目がキラキラ。年齢差のある参加者への対応もばっちりでした。

小林さんがすぐに、アンケートを表とグラフにまとめてくれました。(以下抜粋)

- 1年：楽しかった。またやりたかった。
- 2年：地球のことがよくわかりました。
- 3年：ソーラーエコハウスを作って、可愛くできたり、自然エネルギーについてよくわかったので、来てよかったと思います。

天野さん総指揮のもと参加者も委員も楽しんでつくりあげた会でした。12時終了。(向後紀代美記)



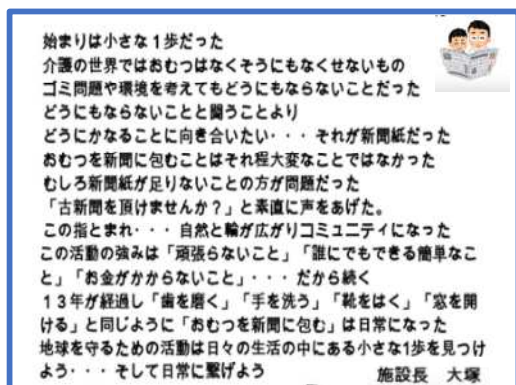
特別養護老人ホーム潮見台みどりの丘の取り組み事例

第11回スマートライフスタイル大賞

(2022年度) 最優秀賞

2

スマートライフスタイル大賞は、川崎市が脱炭素に貢献する市民や事業者等の取組を表彰し、広く発信することで地球温暖化対策を推進することを目的としています。2022年度最優秀賞の特別養護老人ホーム潮見台みどりの丘（麻生区王禅寺）では、おむつ交換に必要なプラ袋に代わり、消臭防湿効果のある新聞紙を使って12年間で、1億5千万^円のCO₂を削減しました。新聞集めには、ご近所や家族ボランティア、新聞販売店へと協力の輪が広がっています。新聞を折りたたむ作業は入居者様のお仕事で、やりがいを持って取り組んでいるそうです。



2023年5月2日に施設を訪問、施設長の大家さんにお話を伺いました。「すべては小さな一歩から」と、コロナ禍でのウエス利用やお薬を飲む水は水道水で大丈夫というお話を伺い、施設の運営に、小さな一歩が大きな成果につながる工夫がちりばめられていると感じました。脱炭素の事例として、継続して連携していきたいと思いました。（林恵美記）



CCあさお主催の夏休み企画に協力

大雨による鶴見川の水害から守る「恩廻公園調節池」見学会および「地球温暖化を考える！」

8月3日（木）参加者31名（14家族）、スタッフ10名の41名で実施されました。

川崎市地球温暖化防止活動推進員の麻生区の集まりがCCあさおで、名前のごとく、温暖化防止のための活動をされており、当委員会とはイベントなど連携し合う仲、今年も協力団体として応援しました。

2003年に完成した地下約50mの巨大トンネル（調節池）は、私たちの住む麻生区下麻生と町田市三輪町、横浜市青葉区寺家町の3地域にまたがっています。鶴見川の洪水から守るためのトンネルで、長さ600m、高さ約16m、11万^m（水深1mの25mプール330杯分）という大きさ、個人では見る事の出来ない施設です。



35°Cになろうかという暑い日に自転車やバスなどでみんな元気に集合。川崎市治水センター担当者からVTRを見ながら「恩廻公園調節池」についての説明を受け、さあ見学！階段200段以上降りて地下7

階に。潜水艦と同じという厚い鋼鉄の2重扉を開けてトンネル内に！急に12°Cの低温でくら〜い世界。所要所にランタンを設置しておいてくださったのでしっかりトンネルの先まで見えました。「もっと先まで行ってみたかった」という声が多く聞かれました。

部屋に戻ってCCかわさき省エネグループの鈴木さんから「地球温暖化を考える」および「鶴見川と洪水」という話を、親も子もうなずきながら熱心に聞いていました。

この2年間はコロナのためzoomによる工作イベントでしたが、実際に見て聞いて、何かを感じとれる対面イベントが実施できたことを、みんなであれしく感じた1日でした。

（天野悦子記）

寺小屋くりぎだい 出前講座を実施

8月19日(土) 栗木台小学校で「寺小屋くりぎだい」の体験学習『夏休み環境イベント ソーラーエコハウスを作ろう!』を実施した。

初めに「自然エネルギーがやってきた」の講義で地球温暖化の現状、自然エネルギーへの転換啓発、私たちに出来ることなどを説明した。そのあと、ソーラーエコハウスの工作&色塗り、本日のまとめとクイズ、最後に児童からの感想、アンケート提出で終了した。

『たのしかったです!いろいろかんがえれたりできてよかったです!』『ネジをつかったのが、はじめてだったので、学びながらあそべて、うれしかったです』『きょう、SDGsやエネルギーをいっぱいまなんだり、こうさくをしたり、たのしかったです』『はやく夜、明かり



3

をつけてきれいなのが見たい』など楽しく学べたとの嬉しい感想が多かった。

夏休み期間中でお盆明けでもあったが、参加は1年生(9名)、2年生(9名)、3年生以上(6名)の24名で保護者も多数参加され、一緒に学習し、工作作業も行ってもらえた。(三好一義記)

あさお子育てフェスタ

9月16日、麻生区役所前広場・市民館1階から3階で開催され、今年は27の団体が参加した。当団体は太陽光を取り入れられる場所、広場で最初に目に付く好位置であった。

10時からスタートしたものの、太陽が顔を出してくれない状態が続いたにもかかわらず、小さなお子さんとおもちゃを目にすると、目を輝かせて、興味深く見入っていた。特にわずかな太陽光でも回る観覧車が、手で太陽の光を遮るとピタッと止まってしまう様子は、子どもたちの興味を引いたようで、目を丸くして不思議がっていた。11時過ぎた頃から太陽が顔を出し、すべてのおもちゃが作動し、机の上から転げ落ちたりして、一時慌ててしまった。この頃には、ソーラーカーを広場に持ち



出し、動かす子どもたちは喜びに浸っていた。他の来場者の邪魔にならないか、注意しながら係員や親が見守っていた。ただ、子どもが楽しむだけでなく、クールアースの活動に耳を貸してくれた方々には会報とイベントのチラシを配布し、さらに景品を選んでもらった。約40名の方に配布できた。

現在自宅を新築する予定のご夫婦から「オール電化で計画しているが、太陽光発電のパネルを載せるか迷っている」と相談を受け、「電気代も高価になっているので、バッテリー込みで計画されたら如何でしょう」と提案した。「前向きに太陽光発電設置を検討します」と話され、我々スタッフ一同もやりがいを感じた次第である。

(井上正樹記)



麻生区クールアース推進委員会 メンバー紹介

向後紀代美

正式に入会するだいぶ前から、各種行事に参加し「楽しい会!」と思っていました。バス見学会での足利工業大学や北杜市、川崎臨海部などの訪問。区役所屋上でソーラークッカーを使用して、子どもたちとの焼き芋やゆで卵作り。エプロン姿の委員の方々の活動がまぶしかったです。一流講師の講演会・・・区役所と市民の協働というもの「地域おこし」がテーマの私の興味をひいた。長らく国際NGOの一員として、かかわってきたマングローブ植林が気候変動との関係から注目されることになり、当会の参加を正式に決定しました。参加してあらためて、委員の方々の熱意と努力に感心しています。どうぞよろしくお願いいたします。



2023 里山フォーラム in 麻生（第22回）に参加 ～集まり・知って・つながる豊かな世界～

4

3月18日10時～12時、麻生市民館大会議室に麻生区の自然を守り、「いのち」をはぐくむ33団体が一堂に会し、交流しました。

3月11日から17日にかけて事前に市民館に展示していた活動紹介パネルを当日は会場に移しました。山伏のほら貝とアルプホルンの演奏、来賓挨拶の後、第17回わたしのまちのホッとする風景写真の表彰式、和光大・堂前雅史教授の基調講演「足もとの自然と環境教育」があり、続いて1時間にわたって展示団体によるトークリレーがありました。バトンを受けた私は「環境を保全し次



世代につなぐ」を念頭において、パリ協定“脱炭素による1.5°Cの約束”を何としても皆さんと一緒に守りたいと呼びかけました。
(児嶋脩記)

6月27日(火)川崎市民アカデミー“環境とみどり”ワークショップ環境グループのメンバー4名が来訪され、三好・林・向後・森脇で13時15分より30分ほど見学対応を行った。あいにく曇りがちの天気だったが、三好委員からの説明に興味を持って聞いていただき、太陽光パネルの廃棄に関する質問も受けた。

麻生区役所屋上太陽光発電設備 見学対応

かもく会 出前講座

7月6日(木)新百合21社会福祉協議会大研修室。メンバー7名に対して10時から1時間半ほどの講座対応を三好・森脇で行った。説明は森脇から行い、1時間に渡ったが熱心に最後まで聞いていただいた。質疑応答では、「世界標準の話だが、私は二酸化炭素だけを悪者にするのは納得できない。」とのご意見もあった。

(森脇厚一郎記)

編集 後記

「地球温暖化(warming)の時代は終わり沸騰(boiling)の時代が始まった。」これはグテーレス国連事務総長の言葉(2023年7月27日)。これほど、今夏の事象を的確に捉える言葉はないだろう。日本の6月、7月と8月の平均気温は過去最高であったと気象庁は、発表した。温暖化の影響である。世界的にも高温で、影響は様々なところに広がる。ギリシャやハワイマウイ島では、山火事が発生し大規模な被害をもたらした。

それにしても、こんなに被害が多発しているというのに、人々はなぜ十分な対策をとらないのだろうか？疑問に思う。川崎市や東京都などが太陽光発電設置を

義務づける条例を施行した。このような施策は世の中の仕組みを変えることに繋がり、対策は大きく前進する。私が温暖化防止の活動を始めた1990年後半には「子どもたちに明るい未来を残すため」を掲げていたが、温暖化の進行は前倒しになり、現在は「自分の身を守るため」にもなってしまった。対策が不十分な場合、2050年の世界はどうなっているのだろうか。シミュレーションを見ると恐ろしい。「沸騰の時代」の始まった2023年を生きる私たちには、気候変動対策は自分ごとだ。そして家庭だけでなく社会全体でCO₂を減らす仕組みづくりを目指そう。残された時間は少ない。ここ10年が勝負だ。
(飯田和子記)

発行 : 麻生区クールアース推進委員会(委員長 児嶋脩)

編集担当 : 飯田和子、児嶋脩、小林知江

問合せ先 : 事務局 林恵美

Tel/ Fax : 044-299-6460 E-mail : emi814@sound.ocn.ne.jp

発行日 : 2023年10月20日

